

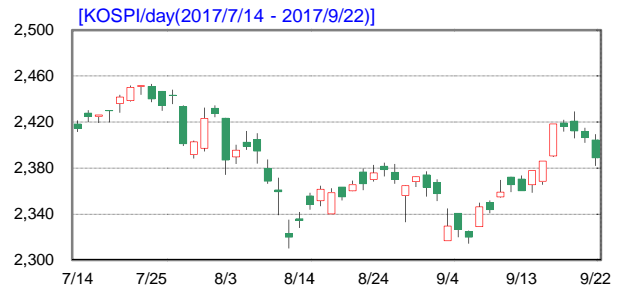


【韓国】 総合指数は週間で0.1%高と小幅続伸、米利上げ観測で資金流出懸念

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.1%高と続伸。週明けは大幅続伸でスタートしたが、その後は4日続落と軟調に推移した。前週末の米株高の流れを引き継ぎ、18日は終値で2400ポイントの大台を回復。8月2日以来、約1カ月半ぶりの高値で引けた。一方、19-21日は高値警戒感に加え、米国の年内利上げ観測の高まりや米長期金利の上昇を背景とした資金流出懸念から利益確定売りが重しとなり、小幅ながら3日続落。22日は北朝鮮が太平洋上で水爆実験を実施する可能性が伝わり、地政学的リスクへの警戒感が再燃したほか、米国が韓国製鉄鋼に関税を課すとの報道も嫌気され、2400ポイントを割り込んで週の取引を終えた。今週は高値圏でもみ合うか。国内では9月のCPI、景況判断、貿易収支などが経済指標の発表が続く。

▼指数チャート

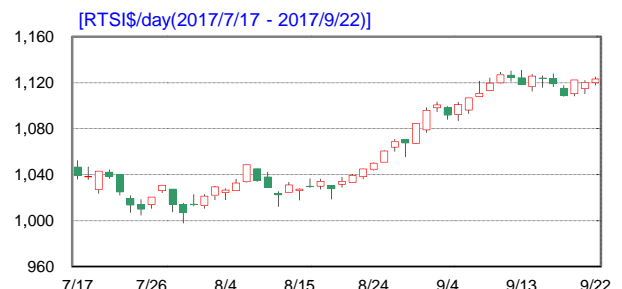


【ロシア】 RTS指数は週間で0.02%安と横ばい、今週は高値警戒でもみ合い続か

先週の動き／今週の展望

RTS指数は週間で0.02%安とほぼ横ばい。前週までの5週続伸を受けて高値警戒感が一段と強まり、振れ幅が拡大した。週前半はブレント原油価格が、一時54ドル台まで下落したことでエネルギー株を中心に売り優勢の展開。19日には1107.79ドルまで下落した。トランプ米大統領が国連演説で「北朝鮮を完全に破壊する」と警告したことも重し。20日にブレント原油価格が4月以来の56ドル台まで上昇するとRTS指数も連れ高し、1120ドル台まで上昇。8月失業率が市場予想(5.1%)を下回る4.9%だったことも支援材料となった。週後半は原油価格が57ドル手前まで上昇し、RTS指数もじり高。一時は前週末比プラス圏に浮上したが、結局0.02%安の1123.24ドルで取引を終了した。今週は高値警戒も強く、もみ合いが続くか。

▼指数チャート

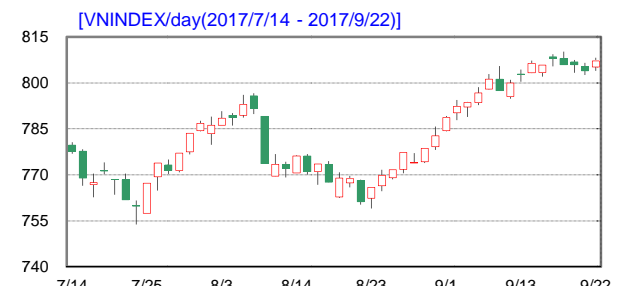


【ベトナム】 VN指数は週間で0.2%高と5週続伸、今週はもみ合う展開か

先週の動き／今週の展望

VN指数は週間で0.2%高と5週続伸。前週までの4週続伸で高値警戒感が強まり、上下の振れ幅がやや拡大したが、プラス圏で取引を終えた。週序盤はもみ合いながらも810.13ポイントまで上昇し、3週連続で約9年7カ月ぶり高値を更新。ただ、19日の引けにかけて高値警戒から値を消し、前週末とほぼ変わらずの805.86ポイントまで下落した。その後もビナムミルクなど主力株が利益確定売りに押され、22日前場に803.94ポイントまで値を崩したものの、値ごろ感で買い戻され、前日比0.4%高807.13ポイントで週の取引を終了した。個別ではファロス建設が10.0%高。先週に相場をけん引したベトジェットエアは株式分割の権利落ち日を22日に迎えたが、6.5%高と続伸し、指数を押し上げた。今週はもみ合う展開か。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.7%高、中銀が 2 会合連続で政策金利引き下げを決定

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 0.7%高と続伸。前週後半の勢いを引き継ぎ、じりじりと上値を広げた。週初の 18 日は金融株とエネルギー株が値上がりして指数上昇をけん引すると、19 日には終値ベースで 3 週間ぶりに 5900 ポイントを回復。イスラム暦新年の祝日を挟んだ 22 日は政策金利の発表を取引終了後に控え、金融緩和促進への期待感の高まりを受けて買われ、指数は場中に一時、過去最高値を更新した。終値では約 1 カ月ぶりの高値をつけ、6 営業日続伸して取引を終了。今週は中央銀行が 2 会合連続で政策金利を 0.25%引き下げ、4.25%に設定したことに対する市場の反応が焦点になる。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.3%高、今週は 8 月の CPI と鉱工業生産に注目

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.3%高と 3 週ぶりに反発。週初の値上がり潮目を変えた。18 日は 8 月の非石油地場輸出が前年同月比 17.0%増と市場予想を上回ったことが好感されて指数は前営業日比 1.0%上昇し、4 営業日ぶりに反発。一方で 19 日は FOMC の開催を目前に控えた様子見で反落すると 21 日まで 3 日続落したが、22 日は金融株が買われ、反発して引けた。今週は 25 日の 8 月の CPI に続き、26 日には同月の鉱工業生産が発表される予定。鉱工業生産の市場予想は前年同月比 14.3%増で、3 カ月連続の 2 桁成長が見込まれる。外部要因では、北朝鮮に対する国際社会からの制裁強化の動きに注目。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.1%安、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

SET 指数は週間で 0.1%安と 6 週ぶりに反落。週末の下落が痛手だった。週初の 18 日はタイ石油公社 (PTT) とタイ空港公社が指数上昇をけん引。19 日は 8 月にタイを訪れた外国人数が 313 万人と前年同月比 8.7%増加したことが好感された。ただ、20 日に利益確定売りで 5 営業日ぶりに小幅反落すると、21 日は 8 月の輸出 (通関ベース) が前年同月比 13.2%増と市場予想を大幅に上回ったものの指数上昇につながらず、前日からほぼ横ばい。結局 22 日まで 3 日続落して引けた。今週は 27 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催するほか、29 日に 8 月の鉱工業生産と 7 月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート

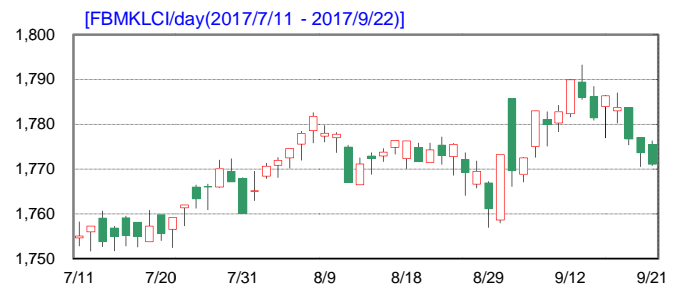


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.9%安、物価上昇圧力の高まりを嫌気

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 0.9%安と 4 週ぶりに反落。買い材料に乏しく、じりじりと下値を広げた。20 日は 8 月の CPI 上昇率が前年同月比 3.7%と市場予想を上回り、物価上昇圧力がやや強まったことが嫌気されて売られると、21 日は米 FOMC が定例会合後の声明で年内に追加利上げを実施する可能性を示唆したことを受け、東南アジア市場からの資金流出懸念が高まり 4 日続落。終値ベースで約 2 週間ぶりの安値を更新して週の取引を終えた。今週は国内の重要イベントが少なく、中国が北朝鮮向けの石油精製品の輸出制限や、金融取引を禁止する制裁を決定したことに対する同国の反応が焦点。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。